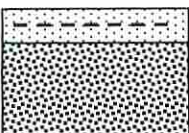
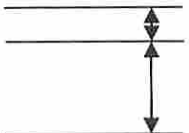


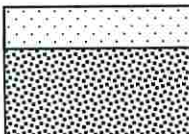
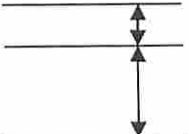
(3) コンクリート舗装

・社団法人 日本道路協会 アスファルト舗装要綱P177による

		車道部分	歩道部分
		金網入り	金網無
		コンクリート 10 cm	7 cm
		路盤 (RC-40) 15 cm	10 cm

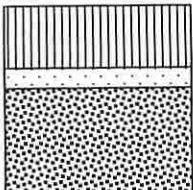
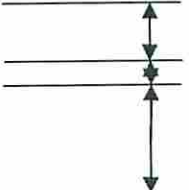
(4) 透水性コンクリート舗装

・社団法人 日本道路協会 透水性舗装ガイドブック2007 P25による

			歩道部分
		ポーラスコンクリート	8 cm
		路盤 (RC-40)	10 cm

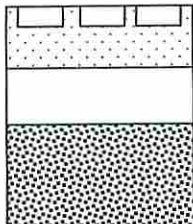
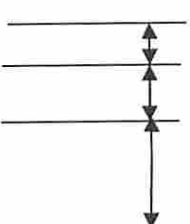
(5) インターロッキングブロック舗装

・社団法人 日本道路協会 アスファルト舗装要綱P178による

		車道部分	歩道部分	
		インターロッキングブロック	6 cm	
			8 cm	3 cm
		砂または空練モルタル		
		路盤 (RC-40) 15 cm	10 cm	

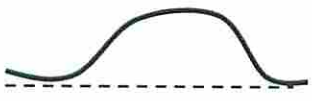

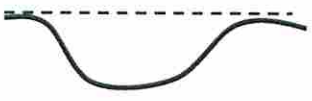

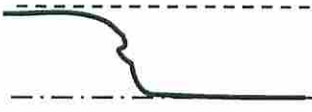

(6) タイル・レンガ等の舗装

・社団法人 日本道路協会 アスファルト舗装要綱P178による

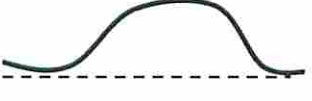

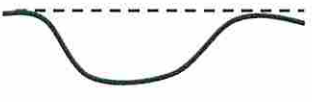



		車道部分	歩道部分	
		タイル・レンガ・自然石		
		練 (空練) モルタル	3 cm程度	
		コンクリート	10 cm	7 cm
		路盤 (RC-40)	15 cm	10 cm

3 復旧工法（パターン）

< 芝生広場 >

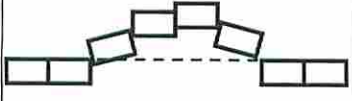

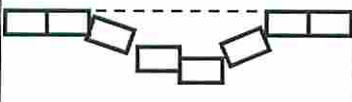

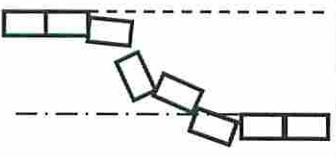

被災状況	復旧工法	
<p>A 隆起</p> 	<p>掘削切土 張芝（状況により、芝生の再利用を図る）</p>	
<p>B 沈下</p> 	<p>芝生をはがし、山砂で埋め戻し転圧後、再度芝生を張る。</p>	
<p>C 段差</p> 	<p>隆起部・沈下部の芝生をはがす。 隆起部の土砂を切削し、沈下部に盛る。 盛土が不足する場合は、山砂で盛土整正し転圧後、再度、取り外した芝生を張る。</p>	<p>すりつけ</p> 

< ダスト舗装 >

被災状況	復旧工法	
<p>A 隆起</p> 	<p>掘削切土 路床整正の上、再度ダスト舗装を実施。</p>	
<p>B 沈下・クラック</p> 	<p>山砂で埋め戻し転圧後、再度ダスト舗装を実施。</p>	
<p>C 段差</p> 	<p>隆起部・沈下部のダストを撤去する。 隆起部の土砂を切削し、沈下部に盛る。 盛土が不足する場合は、山砂で盛土整正し転圧後、再度、ダスト舗装を施工する。</p>	<p>すりつけ</p> 

< インターロッキングブロック舗装 >

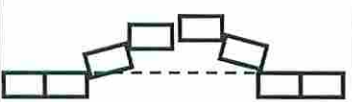

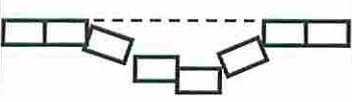

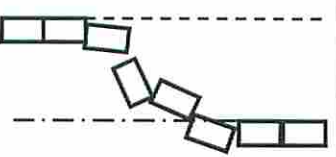
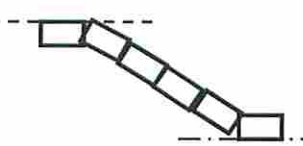
*ブロックは、破損の無い限り、再利用を原則とする。

被災状況	復旧工法	
<p>A 隆起</p> 	<p>ブロックを取り外し、路盤まで撤去。 計画高まで路床を切削整正後、再度路盤・敷砂を施工し、取り外したブロックを再設置。</p>	
<p>B 沈下</p> 	<p>ブロックを取り外し、路盤まで撤去。 路床を山砂で計画高まで埋め戻し転圧後、再度路盤・敷砂を施工し、取り外したブロックを再設置。</p>	
<p>C 段差</p> 	<p>左右のブロックを取り外し、路盤まで撤去。 路床は現場発生土を用い、切盛土で計画高に整正・転圧後、再度路盤・敷砂を施工し、取り外したブロックを再設置。</p>	<p>すりつけ</p> 



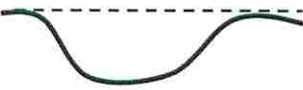

< レンガブロック舗装・タイル舗装・自然石舗装 >

*レンガブロックは、破損の無い限り、再利用を原則とする。

*自然石は、均しモルタルをはがし、極力再利用を図るが、取り外し困難な場合は新材を使用する。

被災状況	復旧工法	
<p>A 隆起</p> 	<p>ブロック等を取り外し、コンクリート舗装・路盤まで撤去。 計画高に合わせ路床を切削整正後、再度路盤・コンクリート舗装を施工後、敷砂を均し、取り外したレンガブロックを再設置。</p>	
<p>B 沈下</p> 	<p>レンガブロックを取り外し、コンクリート舗装・路盤まで撤去。 路床を山砂で計画高まで埋め戻し転圧後、再度路盤・コンクリート舗装・敷砂を施工し、取り外したレンガブロックを再設置。</p>	
<p>C 段差</p> 	<p>左右のブロックを取り外し、コンクリート舗装・路盤まで撤去。 路床を切盛土で計画高まで整正し転圧後、再度路盤・コンクリート舗装・敷砂を施工し、取り外したレンガブロックを再設置。</p>	<p>すりつけ</p> 

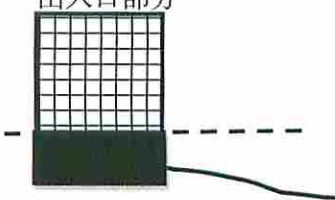
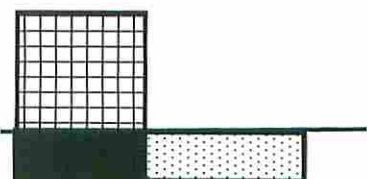
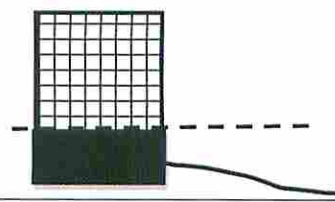
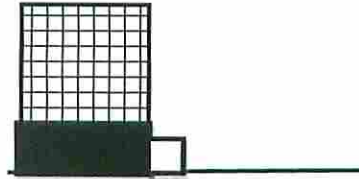
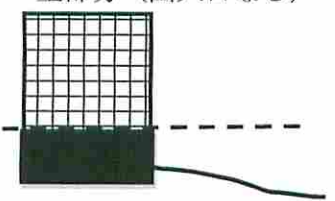
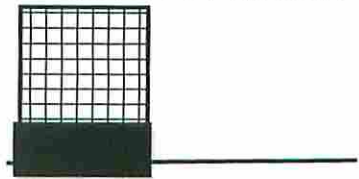
< テニスコート >

被災状況	復旧工法
<p>A 隆起</p> 	<p>被災範囲の表面仕上げ材（人工芝・ゴムチップ舗装・カラーAS舗装）をカット撤去する。 路盤を撤去し、路床を掘削切土し、計画高に合わせる。 再度路盤・基層ASを施工し、各種表面仕上げ材を施工。</p> 
<p>B 沈下・クラック</p> 	<p>被災範囲の表面仕上げ材（人工芝・ゴムチップ舗装・カラーAS舗装）をカット撤去する。 路盤を撤去し、路床を山砂で盛土し、計画高に合わせる。 再度路盤・基層ASを施工し、各種表面仕上げ材を施工。</p> 

< 建物周囲との段差解消 >

- 今回の被災では、公園内の建物は基礎杭により支持されており、沈下は免れたが、その外周部分の舗装が沈下した。






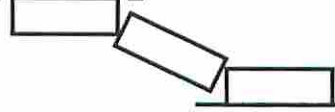
復旧方法は、被災箇所が出入口部分か、壁部分かにより、下記の3通りの対応を図った。

被災状況	復旧工法
<p>出入口部分</p> 	<p>舗装材料を取り外し、路盤まで撤去。 路床を山砂で盛土し、計画高に合わせ整正後、再度路盤・舗装を施工する。</p> <p>A 舗装かさ上げ</p> 
<p>出入口部分</p> 	<p>沈下した舗装部分に、新たに階段・スロープを設置する。</p> <p>B 階段設置</p> 
<p>壁部分（出入口なし）</p> 	<p>沈下した高さで、破損した舗装材・路盤を補修し、舗装仕上り高を下げる。</p> <p>C 現況高さで、舗装復旧</p> 

< 歩車道境界ブロック・L型縁石 >

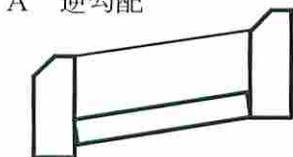
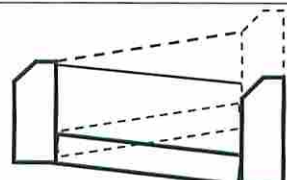
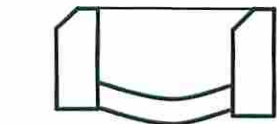
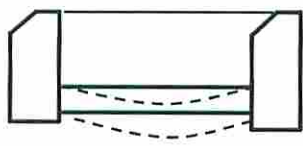

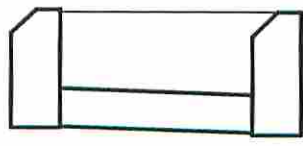
< U型側溝・皿型側溝 >

*ブロック・コンクリート製品は、破損の無い限り、再利用を原則とする。

被災状況	復旧工法	
<p>A 隆起</p> 	<p>ブロックを取り外し、路盤まで撤去。 路床を切削整正後、再度路盤・敷砂を 施工し、取り外したブロックを再設置。</p>	
<p>B 沈下</p> 	<p>ブロックを取り外し、路盤まで撤去。 路床を山砂で埋め戻し転圧後、再度路盤・敷 砂を施工し、取り外したブロックを再設置。</p>	
<p>C 段差</p> 	<p>左右のブロックを取り外し、路盤まで撤去。 路床を切盛土で整正し転圧後、再度路盤・敷 砂を施工し、取り外したブロックを再設置。</p>	<p>すりつけ</p> 

< 雨水・汚水管渠 >


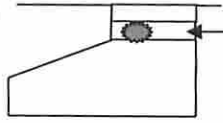
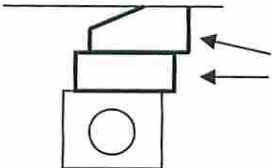
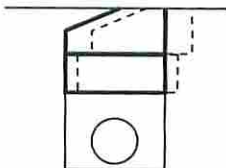
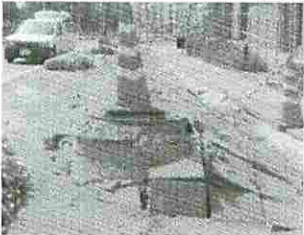
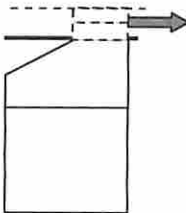
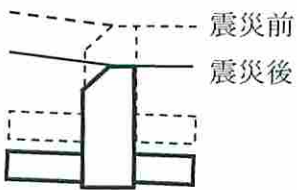
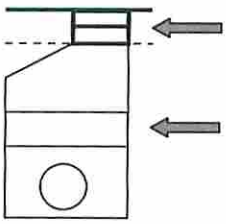
*ヒューム管は、破損の無い限り、再利用を原則とする。

被災状況	復旧工法	
<p>A 逆勾配</p> 	<p>開削による布設替 スパン単位で実施 必要に応じてマンホールの布設替 *注①</p>	
<p>B 蛇行</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 開削による布設替 たるみ区間のみ実施 	
<p>C 変形・破損</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 開削による布設替 破損区間のみ、管の交換実施 	

*注① 雨水管の逆勾配区間で、逆勾配の落差が、その区間の管渠直径の1/2以内に収まり、流下機能が確保されている場合は、復旧は行わない。

ただし、汚水管の逆勾配区間は、すべて復旧作業を実施する。

<マンホール・汚水桝・雨水桝>

被災状況	復旧工法	
<p>H 蓋またはリング破損</p> 	<p>開削による蓋またはリングの交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料は新材を使用 	 <p>材料の交換</p>
<p>I 斜壁・直壁のずれ</p> 	<p>開削による布設替</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斜壁・直壁のずれ箇所まで開削しずれを修正 ・材料は発生材を使用 	
<p>M マンホール・桝の隆起</p> 	<p>開削による布設替</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調整リング等の撤去などによる高さ調整 	 <p>材料の撤去</p>
<p>N マンホール・桝の沈下</p>  <p>震災前 震災後</p>	<p>マンホールの高さ調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調整リング等による震災前高さまで調整 ・直壁の挿入による震災前高さまで調整 ・沈化に伴い、本管を布設替する場合は、マンホールの布設替も行う。 ・桝は、打ち足しによるかさ上げ。 	 <p>材料の追加</p>